

第 5 章

ナビゲーションの コンポーネント

Bootstrap には、ナビゲーションの UI を実装することに特化したコンポーネントがいくつも用意されています。これらを利用すれば、ページを遷移する機能だけではなく、ブランドやフォームといった複数の機能を組み込むことができるナビゲーションバー、ページ位置を示すパンくずリストやページネーション、リンクをひとまとめに表示できるリストグループなど、多彩な UI を複雑なコードを記述することなく作成することができます。本章ではこれらナビゲーションのコンポーネントの使い方を解説します。

1

ナビゲーション

Bootstrap の **ナビゲーション** は、ul 要素または nav 要素を使用してナビゲーションの UI を作成するコンポーネントです。このコンポーネントには、横並び、縦並びのナビゲーション、タブ型、ピル型のナビゲーション、ドロップダウンを組み込んだナビゲーションなどのバリエーションがあります。本節では Bootstrap のナビゲーションを使用する方法を解説します。

5.1.1 基本的な使用例

ul 要素または nav 要素に **nav クラス** を追加してナビゲーションを作成します。ul 要素と nav 要素のどちらの要素を使用するかによって、必要なクラスも違ってきますので、確認しながら進めていきましょう。

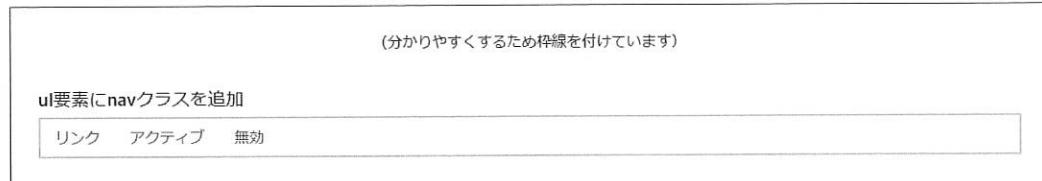
■ ul 要素を使用したナビゲーション

次の例は、ul 要素を使用してナビゲーションを作成した例です（リスト 5-1、図 5-1）。

▼リスト 5-1 ナビゲーションの基本的な使用例：ul 要素（navs-basic-ul.html）

```
<h3>ul要素にnavクラスを追加</h3>
<ul class="nav"> _____①
  <li class="nav-item"><a class="nav-link" href="#">リンク</a></li> _____②
  <li class="nav-item"><a class="nav-link active" href="#">アクティブ</a></li> _____③
  <li class="nav-item"><a class="nav-link disabled" href="#">無効</a></li> _____④
</ul>
```

▼図 5-1 ナビゲーションの基本的な使い方：ul 要素



まず、ul 要素に **nav クラス** を追加してナビゲーション全体を作成します（①）。次に、li 要素に **nav-item クラス** を追加してナビゲーション項目を作成し、その子要素の a 要素に **nav-link クラス** を追加してナビゲーションリンクを作成します（②）。なお、後述するタブ型やピル型のナビゲーションなどでは、active クラスを追加することでアクティブ状態を示すことができますが、この基本のナビゲーションでは、アクティブ状態を示す特別なスタ

イルはなく、active クラスを追加しても見た目に変化はありません（③）。また、disabled クラスを追加すると、リンクを無効状態にすることができます（④）。

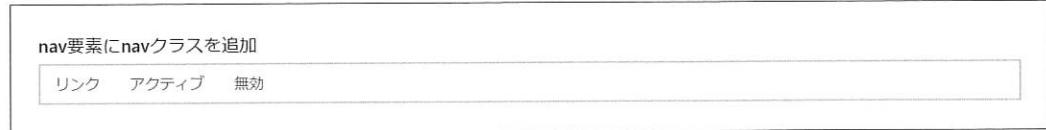
nav 要素を使用したナビゲーション

次の例は、nav 要素を使用してナビゲーションを作成した例です（リスト 5-2、図 5-2）。

▼リスト 5-2 ナビゲーションの基本的な使用例：nav 要素（navs-basic-nav.html）

```
<h3>nav要素にnavクラスを追加</h3>
<nav class="nav"> _____
  <a class="nav-link" href="#">リンク</a> _____ ①
  <a class="nav-link active" href="#">アクティブ</a> _____ ②
  <a class="nav-link disabled" href="#">無効</a> _____ ③
</nav> _____ ④
```

▼図 5-2 ナビゲーションの基本的な使い方：nav 要素



まず、nav 要素に **nav クラス** を追加してナビゲーション全体を作成します（①）。次に、a 要素に **nav-link クラス** を追加してナビゲーションリンクを作成します（②）。ul 要素の場合と同様、nav-link クラスが設定された a 要素に active クラスを追加してもリンクの状態は変化しません（③）。disabled クラスを追加すると、リンクを無効状態にすることができます（④）。

5.1.2 ナビゲーションに使用できるスタイル

Bootstrap のナビゲーションには、横並び、縦並び、タブ型、ピル型、ドロップダウンなど、さまざまなバリエーションのスタイルを定義したクラスが用意されています。

ナビゲーションの水平方向の位置合わせ

ナビゲーション項目の水平方向の位置を変更する場合は、nav クラスが設定された要素に Flex ユーティリティ（P.322 参照）の **justify-content-{ 整列方法 } クラス** を追加します。整列方法には center（中央）、end（終点）などが入ります。

ナビゲーション項目の位置は初期設定では左揃えですが、nav クラスが設定された要素に **justify-content-center クラス** を追加して中央揃えに、**justify-content-end クラス** を追加して右揃えにすることができます（リスト 5-3、図 5-3）。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

▼リスト5-3 ナビゲーションの水平方向の位置合わせ (navs-horizontal-alignment.html)

```
<div class="container">
  <h3>中央揃え</h3>
  <ul class="nav justify-content-center"><!-- 中央揃え -->
    <li class="nav-item"><a class="nav-link active" href="#">アクティブ</a></li>
    <li class="nav-item"><a class="nav-link" href="#">リンク</a></li>
    <li class="nav-item"><a class="nav-link disabled" href="#">無効</a></li>
  </ul>
</div>
<div class="container">
  <h3>右揃え</h3>
  <ul class="nav justify-content-end"><!-- 右揃え -->
    <li>…中略…</li>
  </ul>
</div>
```

▼図5-3 ナビゲーションの水平方向の位置合わせ



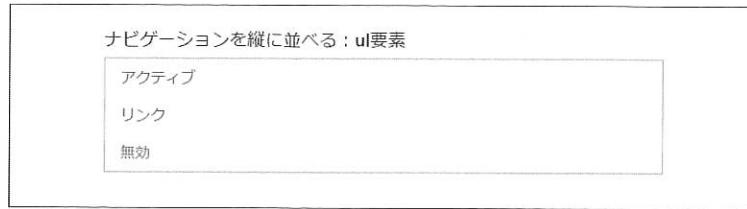
■ ナビゲーションを縦に並べる

navクラスが設定された要素にFlexユーティリティ（P.322参照）の**flex-columnクラス**を追加すると、ナビゲーション項目を縦に並べることができます（リスト5-4、図5-4）。

▼リスト5-4 ナビゲーションを縦に並べる (navs-vertical-ul.html)

```
<h3>ナビゲーションを縦に並べる：ul要素</h3>
<ul class="nav flex-column">
  <li class="nav-item"><a class="nav-link active" href="#">アクティブ</a></li>
  <li class="nav-item"><a class="nav-link" href="#">リンク</a></li>
  <li class="nav-item"><a class="nav-link disabled" href="#">無効</a></li>
</ul>
```

▼図 5-4 ナビゲーションを縦に並べる：ul 要素

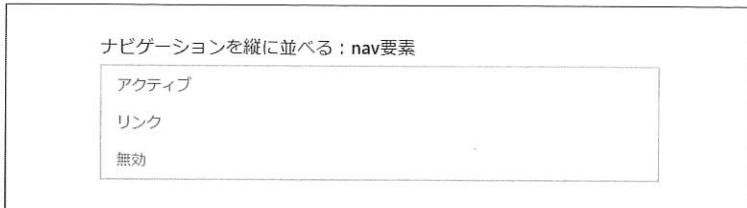


ul 要素ではなく、nav 要素を使用したナビゲーションも縦に並べることができます（リスト 5-5、図 5-5）。

▼リスト 5-5 ナビゲーションを縦に並べる（navs-vertical-nav.html）

```
<h3>ナビゲーションを縦に並べる : nav要素</h3>
<nav class="nav flex-column">
  <a class="nav-link active" href="#">アクティブ</a>
  <a class="nav-link" href="#">リンク</a>
  <a class="nav-link disabled" href="#">無効</a>
</nav>
```

▼図 5-5 ナビゲーションを縦に並べる : nav 要素



■ タブ型ナビゲーションを作成する

nav クラスが設定された要素に **nav-tabs** クラスを追加すると、タブ型ナビゲーションを作成することができます。次の例では、ul 要素を使用したタブ型ナビゲーションを作成しています。このとき、最初に表示したいタブには、**active** クラスを追加してアクティブ化しておきます（リスト 5-6、図 5-6）。

▼リスト 5-6 タブナビゲーション（navs-tabs.html）

```
<ul class="nav nav-tabs">
  <li class="nav-item"><a class="nav-link active" href="#">アクティブ</a></li>
  <li class="nav-item"><a class="nav-link" href="#">リンク</a></li>
  <li class="nav-item"><a class="nav-link disabled" href="#">無効</a></li>
</ul>
```

▼図 5-6 タブナビゲーション



■ ピル型ナビゲーションを作成する

nav クラスが設定された要素に **nav-pill クラス** を追加すると、ピル型ナビゲーションを作成できます。次の例では、ul 要素を使用したピル型ナビゲーションを作成しています。このとき、最初にハイライト表示したいリンクには、**active クラス**を追加してアクティビ化しておきます（リスト 5-7、図 5-7）。

▼リスト 5-7 ピルナビゲーション（navs-pills.html）

```
<ul class="nav nav-pills">
  <li class="nav-item"><a class="nav-link active" href="#">アクティブ</a></li>
  <li class="nav-item"><a class="nav-link" href="#">リンク</a></li>
  <li class="nav-item"><a class="nav-link disabled" href="#">無効</a></li>
  </li>
</ul>
```

▼図 5-7 ピル型ナビゲーション



■ ナビゲーション項目の幅を調整する

ナビゲーション項目のクリックできる領域を広げて、ナビゲーション全幅に渡って項目をレイアウトする場合は、nav クラスが設定された要素に **nav-fill クラス** を追加します。このとき、クリックできる領域は、ナビゲーション項目の内容に合わせて幅が調整されますので、すべての項目が同じ幅にはならないことに注意してください（リスト 5-8、図 5-8）。

▼リスト 5-8 ナビゲーション項目の幅を調整する：ul 要素（navs-fill.html）

```
<div class="container">
  <h3>nav-fill クラスが無い時</h3>
  <ul class="nav nav-pills">
    ...中略...
  </ul>
</div>
<div class="container">
  <h3>nav-fill クラスを追加した時</h3>
  <ul class="nav nav-pills nav-fill">
    <li class="nav-item"><a class="nav-link active" href="#">アクティブ</a></li>
    <li class="nav-item"><a class="nav-link" href="#">リンク</a></li>
  </ul>
</div>
```

```
<li class="nav-item"><a class="nav-link disabled" href="#">無効</a></li>
</ul>
</div>
```

▼図 5-8 ナビゲーション項目の幅を調整する

nav-fillクラスが無い時

アクティブ リンク 無効

nav-fillクラスを追加した時

アクティブ リンク 無効

ul 要素ではなく、nav 要素を使用したナビゲーションの幅を調整する場合は、nav 要素に **nav-fill クラス** を追加し、nav-link クラスが設定された a 要素に **nav-item クラス** を追加します（リスト 5-9、図 5-9）。

▼リスト 5-9 ナビゲーション項目の幅を調整する：nav 要素（navs-fill-nav.html）

```
<h3>nav要素を使用したナビゲーション</h3>
<nav class="nav nav-pills nav-fill">
  <a class="nav-item nav-link active" href="#">アクティブ</a>
  <a class="nav-item nav-link" href="#">リンク</a>
  <a class="nav-item nav-link disabled" href="#">無効</a>
</nav>
```

▼図 5-9 ナビゲーション項目の幅を調整する：nav 要素

nav要素を使用したナビゲーション

アクティブ リンク 無効

すべての項目と同じ幅にしたい場合は、nav クラスが設定された要素に **nav-justified クラス** を追加します。先の例と同様、a 要素には **nav-item クラス** が必要です。nav-fill クラスを追加した場合と異なり、すべての項目が同じ幅になります。なお次の例では背景色を付けて幅をわかりやすくするために、一部の項目に active クラスを追加しています（リスト 5-10、図 5-10）。

▼リスト 5-10 ナビゲーション項目の幅を等幅にする（navs-justified.html）

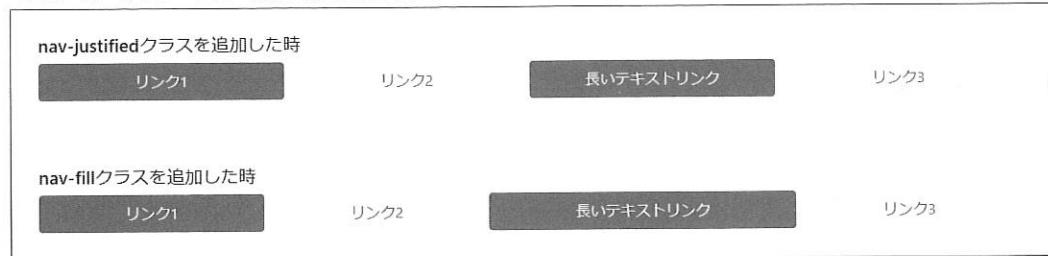
```
<div class="container">
  <h3>nav-justifiedクラスを追加した時</h3>
  <nav class="nav nav-pills nav-justified">
    <a class="nav-item nav-link active" href="#">リンク1</a>
    <a class="nav-item nav-link" href="#">リンク2</a>
    <a class="nav-item nav-link active" href="#">長いテキストリンク</a>
    <a class="nav-item nav-link" href="#">リンク3</a>
  </nav>
</div>
```

```

</nav>
</div>
<div class="container">
  <h3>nav-fillクラスを追加した時</h3>
  <nav class="nav nav-pills nav-fill">
    …中略…
  </nav>
</div>

```

▼図 5-10 ナビゲーション項目の幅を等幅に調整する



5.1.3 レスポンシブ対応のナビゲーション

レスポンシブ対応のナビゲーションが必要な場合は、Flex ユーティリティ（P.322 参照）を使用します。これらのユーティリティを使用すると、ブレイクポイントごとのレイアウト変更が容易になります。次の例では、nav クラスが設定された要素に **flex-column クラス** および **flex-sm-row クラス** を追加して、画面幅が通常（最小以上）では項目が縦並び、画面幅 sm 以上では項目が横並びになるように設定しています。なお a 要素に Flex ユーティリティ（P.322 参照）の **flex-sm-fill クラス** を追加して、画面幅 sm 以上で各項目が親要素の全幅に渡って等幅で並ぶように設定しています。さらに、Text ユーティリティ（P.347 参照）の **text-sm-center クラス** を追加して、画面幅 sm 以上でナビゲーション項目内のテキストが中央寄せになるように設定しています（リスト 5-11、図 5-11）。

▼リスト 5-11 Flex ユーティリティを使用したレスポンシブなナビゲーション（navs-flex.html）

```

<nav class="nav nav-pills flex-column flex-sm-row">
  <a class="flex-sm-fill text-sm-center nav-link active" href="#">アクティブ</a>
  <a class="flex-sm-fill text-sm-center nav-link" href="#">リンク</a>
  <a class="flex-sm-fill text-sm-center nav-link disabled" href="#">無効</a>
</nav>

```

▼図 5-11 通常（最小以上）では縦並び（左）、sm 以上では横並び（右）



COLUMN ナビゲーションのアクセシビリティ

ul要素を使用したナビゲーションを作成する場合、このコンポーネントの役割をスクリーンリーダーなどの支援技術に伝えるためには、ul要素の親要素に属性 `role="navigation"` を追加するか、ul要素を `nav`要素で囲むようにしましょう（リスト5-12）。

▼リスト5-12 ナビゲーションのアクセシビリティ対応（navs-basic-ul-accessibility.html）

```
<h3>ul要素の親要素にrole属性を追加</h3>
<div class="mb-4" role="navigation">
  <ul class="nav">
    ...中略...
  </ul>
</div>

<h3>ul要素の親要素にnav要素を使用</h3>
<nav>
  <ul class="nav">
    ...中略...
  </ul>
</nav>
```

このとき、ul要素に直接role属性を追加しないように注意してください。これはコンポーネントの役割が「リスト」として伝わってしまわないようにするためです。

5.1.4 ドロップダウンナビゲーション

ナビゲーションにドロップダウンを組み込み、ナビゲーション項目にドロップダウンメニューを作成することができます。本項では、タブ型ナビゲーションと、ピル型ナビゲーションにドロップダウンを組み込んだ例を紹介します。ドロップダウンについての説明は、6-5「ドロップダウン」（P.244参照）で解説していますのでここでの説明は割愛します。

■ タブ型ナビゲーションにドロップダウンを組み込む

次の例は、タブ型ナビゲーションにドロップダウンを組み込んだ例です。ややコードが長くなっていますが、基本的にはこれまでと同じで、li要素に `dropdown`クラスを追加し、ドロップダウンを設定します（リスト5-13）。

▼リスト5-13 ドロップダウンを組み込んだタブ型ナビゲーション（navs-tabs-dropdown.html）

```
<ul class="nav nav-tabs">
  <li class="nav-item">
    <a class="nav-link active" href="#">アクティブ</a>
  </li>
  <li class="nav-item dropdown"><!-- ここからドロップダウン -->
```

```

<a class="nav-link dropdown-toggle" data-toggle="dropdown" href="#" role="button" ↪
aria-haspopup="true" aria-expanded="false">ドロップダウン</a>
<div class="dropdown-menu">
  <a class="dropdown-item" href="#">リンク1</a>
  <a class="dropdown-item" href="#">リンク2</a>
  <a class="dropdown-item" href="#">リンク3</a>
  <div class="dropdown-divider"></div>
  <a class="dropdown-item" href="#">その他リンク</a>
</div>
</li>
<li class="nav-item"><!-- ドロップダウンここまで -->
  <a class="nav-link" href="#">リンク</a>
</li>
<li class="nav-item">
  <a class="nav-link disabled" href="#">無効</a>
</li>
</ul>

```

nav クラスおよび nav-tabs クラスを設定したタブ型ナビゲーションの中に、表 5-1 のクラスを追加した要素を使用してドロップダウンメニューを作成しています（図 5-12）。詳しくは 6-5 「ドロップダウン」（P.244）を参照してください。

▼表 5-1 ドロップダウンの作成に使用するクラス

クラス	概要
dropdown	li 要素に追加し、ドロップダウンの外枠を作成する
dropdown-toggle	a 要素に追加し、ドロップダウン表示の切り替えボタンを作成する
dropdown-menu	div 要素に追加し、ドロップダウンメニューの外枠を作成する
dropdown-item	a 要素に追加し、ドロップダウンメニューの各項目を作成する
dropdown-divider	a 要素に追加し、ドロップダウン表示される項目の区切り線を作成する

▼図 5-12 ドロップダウンを組み込んだタブ型ナビゲーション



■ ピル型ナビゲーションにドロップダウンを組み込む

タブ型ナビゲーションと同様に、ピル型ナビゲーションにもドロップダウンを組み込むことができます。先の例のタブ型ナビゲーションに設定されている nav-tabs クラスを **nav-pills クラス** に変更するだけで作成できます（リスト 5-14、図 5-13）。

▼リスト 5-14 ドロップダウンを組み込んだピル型ナビゲーション (navs-pills-dropdown.html)

```
<ul class="nav nav-pills">
  . . . 以降、前のコードと同様
</ul>
```

▼図 5-13 ドロップダウンを組み込んだピル型ナビゲーション



5.1.5 ナビゲーションの JavaScript 使用例

Bootstrap の JavaScript プラグイン (P.260 参照) を使用すると、タブ型またはピル型のナビゲーションを拡張した切り替えパネルを作成できます。これらを利用するには、データ属性を使う方法と JavaScript コードを書く方法の 2 種類があります。なお、ここではタブ型について説明していますがピル型の場合も同様の方法で利用できます。

■ データ属性を利用する

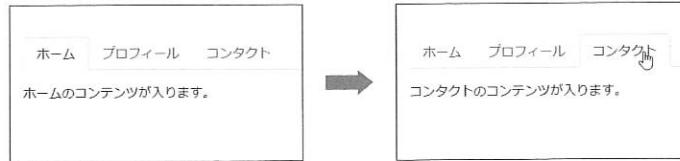
最初にデータ属性を利用した方法を見てみましょう。コードは次のとおりです (リスト 5-15、図 5-14)。

▼リスト 5-15 ナビゲーションをデータ属性 API で利用する (nav-js-data.html)

```
<!-- タブ部分 -->
<ul class="nav nav-tabs" id="myTab" role="tablist">
  <li class="nav-item"><a class="nav-link active" id="home-tab" data-toggle="tab" href="#home" ↵
    role="tab" aria-controls="home" aria-selected="true">ホーム</a></li> ①
  <li class="nav-item"><a class="nav-link" id="profile-tab" data-toggle="tab" href="#profile" ↵
    role="tab" aria-controls="profile" aria-selected="false">プロフィール</a></li> ②
  <li class="nav-item"><a class="nav-link" id="contact-tab" data-toggle="tab" href="#contact" ↵
    role="tab" aria-controls="contact" aria-selected="false">コンタクト</a></li> ③
</ul>
<!-- パネル部分 -->
<div class="tab-content mt-3" id="myTabContent"> ④
  <div class="tab-pane fade show active" id="home" role="tabpanel" aria-labelledby="home-tab"> ⑤
    ホームのコンテンツが入ります。</div>
  <div class="tab-pane fade" id="profile" role="tabpanel" aria-labelledby="profile-tab"> ⑥
    プロフィールのコンテンツが入ります。</div>
  <div class="tab-pane fade" id="contact" role="tabpanel" aria-labelledby="contact-tab"> ⑦
    コンタクトのコンテンツが入ります。</div>
</div>
```

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

▼図 5-14 タブ切り替えナビゲーションの例



要素に属性 **data-toggle="tab"** または **data-toggle="pill"** を追加するだけで、JavaScriptを記述することなくタブ切り替えまたはピル切り替えのナビゲーションを有効化できます（①）。パネル部分は全体をdiv要素で囲んで、**tab-content** クラスを追加します（②）。各パネルとなる要素には、**tab-pane** クラスを追加し、最初に表示するパネルには、**active** および **show** クラスを追加します。パネルをフェードインさせるには、**fade** クラスを追加します（③）。

■ JavaScript コードを使用する

データ属性を記述せずに、JavaScript コードを書いてパネルを切り替えることも可能ですが（リスト 5-16）。

▼リスト 5-16 ナビゲーションを JavaScript 経由で利用する（nav-js.html）

```
$('#myTab a').on('click',function (e) {
  e.preventDefault()
  $(this).tab('show')
})
```

上記の例では、#mytab 内の a 要素をクリックすると、関連するパネルを表示します。**preventDefault()** を使用することで a タグの href を無効化し、クリックしたリンク先へ移動するのを防げています。

5

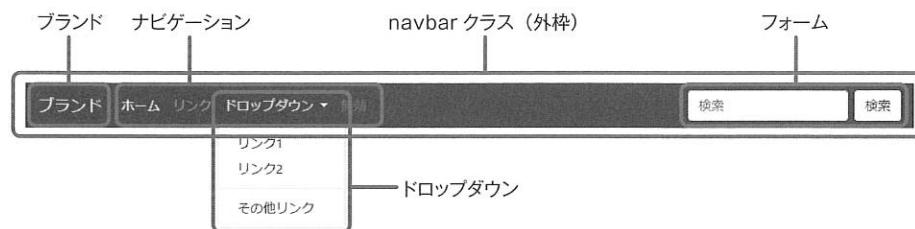
SECTION

2

ナビゲーションバー

Bootstrap のナビゲーションバーは、ロゴマークやナビゲーション、検索フォームなど複数のコンテンツを含んだナビゲーションバーを作成するコンポーネントです。本節では、Bootstrap のナビゲーションバーと、そこに含まれるコンテンツを作成するサブコンポーネントの使用法を解説します。ナビゲーションバーは、中に組み込むサブコンポーネントの種類が多くバリエーションも豊富です。その分、コードも非常に長くなるため、最初は覚えるのが大変ですが、コンポーネントの構造を把握しながら覚えていくようにしましょう（図 5-15）。

▼図 5-15 サブコンポーネントを配置したナビゲーションバーの例



5.2.1 外枠の作成

まず nav 要素または div 要素に **navbar クラス** を追加して、ナビゲーションバーの外枠を作成します。ナビゲーションバーの外枠となる要素には、navbar クラスを含め表 5-2 のようなクラスを追加します。

▼表 5-2 ナビゲーションバーの外枠に使用するクラス

クラス	概要
navbar	ナビゲーションバーの外枠を作成
navbar-expand-{ ブレイクポイント }	ブレイクポイントでナビゲーション項目の表示を切り替え
navbar-{ 背景色の種類 }	背景色が dark の場合は明るい文字色、light の場合は暗い文字色を設定
bg-{ 色の種類 }	primary (青)、secondary (グレー) など背景色を設定

次の例では、navbar クラスを設定した nav 要素に **navbar-expand-lg クラス** を追加して、画面幅 lg 以上になるとナビゲーション項目が横に広がって表示され、画面幅 md 以下になると折り畳まれてアイコン表示になるナビゲーションバーを作成しています。また **bg-dark クラス** および **navbar-dark クラス** を追加して、ナビゲーションバーの背景色が暗いときにサブコンポーネントの文字色を明るくして読みやすくなるように設定しています（リスト 5-17）。なおサブコンポーネントについては次項より解説します。

▼リスト5-17 ナビゲーションバーの基本的な使い方：nav要素

```
<nav class="navbar navbar-expand-lg navbar-dark bg-dark">
  ここにサブコンポーネントが入ります
</nav>
```

div要素を使用してナビゲーションバーを作成する場合は、属性 **role="navigation"** を追加し、このコンポーネントの役割をスクリーンリーダーなどの支援技術に伝えましょう（リスト5-18）。

▼リスト5-18 ナビゲーションバーの基本的な使い方：div要素

```
<div class="navbar navbar-expand-lg navbar-dark bg-dark" role="navigation">
  ここにサブコンポーネントが入ります
</div>
```

ナビゲーションバーは、印刷時に非表示になるように初期設定されています。ナビゲーションバーを印刷時に表示する場合は、navbarクラスが設定された要素に **d-printクラス** を追加します（リスト5-19）。詳しくは「Displayユーティリティ」（P.310）を参照してください。

▼リスト5-19 ナビゲーションバーを印刷する

```
<nav class="navbar navbar-expand-lg navbar-dark bg-dark d-print">
  ここにサブコンポーネントが入ります
</nav>
```

5.2.2 サブコンポーネントの作成

ナビゲーションバーの枠内に、ブランド名やナビゲーション、検索フォームなど複数のコンテンツを含めるためのサブコンポーネントを組み込みます。次の例は、ナビゲーション項目が画面幅lg以上で展開表示され、画面幅md以下で折り畳まれて切り替えボタンが表示されるナビゲーションバーです（リスト5-20）。

▼リスト5-20 基本のナビゲーションバー（navbar-basic.html）

```
<nav class="navbar navbar-expand-lg navbar-dark bg-dark">
  <a class="navbar-brand" href="#">ブランド</a>
  <button class="navbar-toggler" type="button" data-toggle="collapse" data-target="#切り替え表示されるコンテンツ名" aria-controls="切り替え表示されるコンテンツ名" aria-expanded="false" aria-label="ナビゲーション切り替え">
    <span class="navbar-toggler-icon"></span>
  </button>

  <div class="collapse navbar-collapse" id="切り替え表示されるコンテンツ名">
    <ul class="navbar-nav mr-auto">
      ...中略...
    </ul>
    <form class="form-inline my-2 my-lg-0">
```

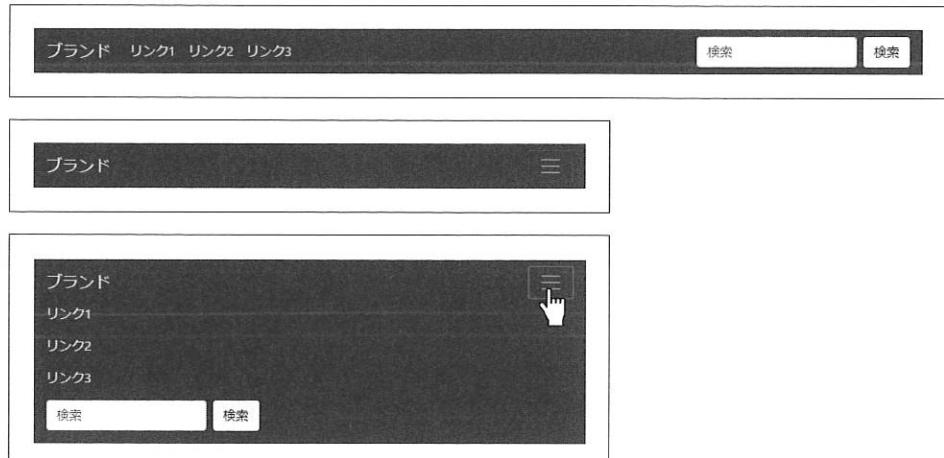
```
...中略...
</form>
</div>
</nav>
```

ナビゲーションバーの枠内にロゴマークやナビゲーション、検索フォームなど複数のコンテンツを含めるために、表 5-3 のようなクラスを追加した要素を主なサブコンポーネントとして組み込みます（図 5-16）。

▼表 5-3 ナビゲーションバーの主なサブコンポーネントを作成するクラス

クラス	概要
navbar-brand	会社、製品、プロジェクトなどのブランド名やロゴを表示
navbar-toggler	ナビゲーションの表示切り替えボタンを作成
navbar-toggler-icon	ナビゲーション非表示時に表示されるアイコン（ハンバーガーアイコン）
collapse navbar-collapse	ナビゲーションバー内に切り替え表示されるコンテンツを作成
navbar-nav	ナビゲーションバー内にナビゲーションを作成
form-inline	フォームの入力コントロールなどを作成
navbar-text	ナビゲーションバー内の垂直方向中央に表示されるテキストを作成

▼図 5-16 基本のナビゲーションバー：画面幅 lg 以上（上）、画面幅 md 以下（中）、切り替えボタン押下時（下）



では、各サブコンポーネントについてより詳しく見ていきましょう。

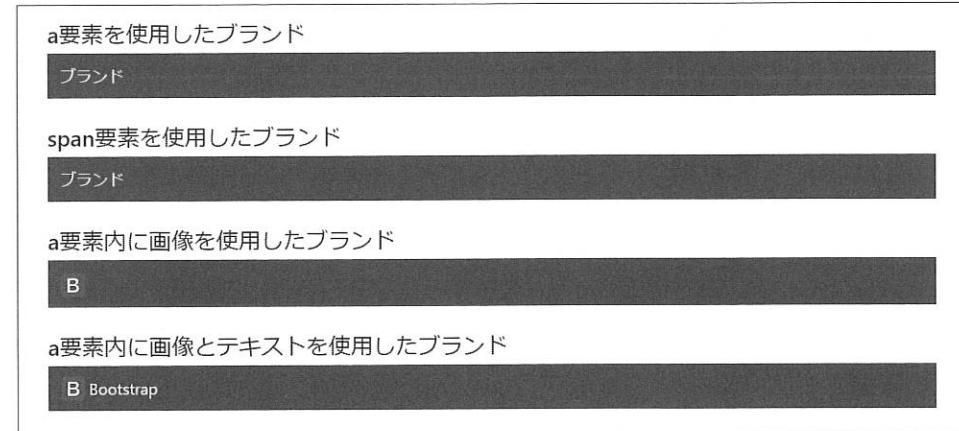
■ ブランド

ブランドは、ナビゲーションバーにブランド名などの見出しやロゴなどの画像を表示させるサブコンポーネントです。ブランドとして表示させたい要素に **navbar-brand クラス** を追加します。a 要素や span 要素をはじめ、さまざまな要素を使用することができます（リスト 5-21、図 5-17）。

▼リスト 5-21 ナビゲーションバー：ブランドの例（navbar-brand.html）

```
<div class="container">
  <h3>a要素を使用したブランド</h3>
  <nav class="navbar navbar-dark bg-dark">
    <a class="navbar-brand" href="#">ブランド</a>
  </nav>
</div>
<div class="container">
  <h3>span要素を使用したブランド</h3>
  <nav class="navbar navbar-dark bg-dark">
    <span class="navbar-brand">ブランド</span>
  </nav>
</div>
<div class="container">
  <h3>a要素内に画像を使用したブランド</h3>
  <nav class="navbar navbar-dark bg-dark">
    <a class="navbar-brand" href="#">
      
    </a>
  </nav>
</div>
<div class="container">
  <h3>a要素内に画像とテキストを使用したブランド</h3>
  <nav class="navbar navbar-dark bg-dark">
    <a class="navbar-brand" href="#">
      
      Bootstrap
    </a>
  </nav>
</div>
```

▼図 5-17 ナビゲーションバー：ブランドの例



■ ナビゲーション

ul 要素または div 要素を使用して、ナビゲーションバーの枠内に**ナビゲーション**を作成します。ナビゲーションについては、5-1「ナビゲーション」(P.150 参照)で解説していますので、ここで説明は割愛します。以下に示すのは、**ul 要素**を使用したナビゲーションを組み込んだ例です(リスト 5-22、図 5-18)。

▼リスト 5-22 ナビゲーションバー: ul 要素を使用したナビゲーション (navbar-nav-ul.html)

```
<nav class="navbar navbar-expand-lg navbar-dark bg-dark">
…中略…
<div class="collapse navbar-collapse" id="navbarNav">
<ul class="navbar-nav"><!-- ここからナビゲーション -->
<li class="nav-item active">
  <a class="nav-link" href="#">リンク1<span class="sr-only">(現位置)</span></a>
</li>
<li class="nav-item">
  <a class="nav-link" href="#">リンク2</a>
</li>
<li class="nav-item">
  <a class="nav-link" href="#">リンク3</a>
</li>
<li class="nav-item">
  <a class="nav-link disabled" href="#">無効</a>
</li>
</ul><!-- /ここまでナビゲーション -->
</div>
</nav>
```

▼図 5-18 ul 要素を使用したナビゲーション



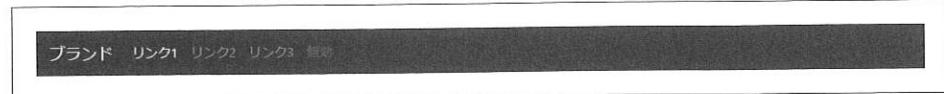
ブランド リンク1 リンク2 リンク3 無効

ul 要素ではなく**div 要素**を使用したナビゲーションを組み込むこともできます(リスト 5-23、図 5-19)。

▼リスト 5-23 ナビゲーションバー: div 要素を使用したナビゲーション (navbar-nav-div.html)

```
<nav class="navbar navbar-expand-lg navbar-dark bg-dark">
…中略…
<div class="collapse navbar-collapse" id="navbarNav">
<div class="navbar-nav"><!-- ここからナビゲーション -->
<a class="nav-item nav-link active" href="#">リンク1<span class="sr-only">(現位置)</span></a>
<a class="nav-item nav-link" href="#">リンク2</a>
<a class="nav-item nav-link" href="#">リンク3</a>
<a class="nav-item nav-link disabled" href="#">無効</a>
</div><!-- /ここまでナビゲーション -->
</div>
</nav>
```

▼図 5-19 div 要素を使用したナビゲーション



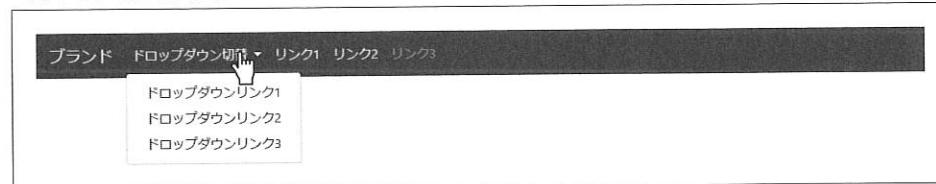
■ ドロップダウン

ナビゲーションバーのナビゲーション項目に**ドロップダウン**を組み込むことができます（リスト 5-24、図 5-20、図 5-21）。ドロップダウンについては、6-5 「ドロップダウン」（P.244 参照）で解説していますのでここでの説明は割愛します。

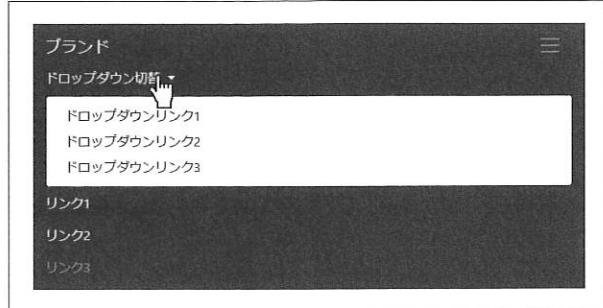
▼リスト 5-24 ナビゲーションバーのナビゲーションにドロップダウンを追加する（navbar-nav-dropdown.html）

```
<nav class="navbar navbar-expand-lg navbar-light bg-light">
...中略...
<div class="collapse navbar-collapse" id="navbarNav">
  <ul class="navbar-nav">
    <li class="nav-item dropdown"><!-- ここからドロップダウン -->
      <a class="nav-link dropdown-toggle" href="#" id="navbarDropdownMenu" data-toggle="dropdown" aria-haspopup="true" aria-expanded="false">ドロップダウン切り替え</a>
      <div class="dropdown-menu" aria-labelledby="navbarDropdownMenu">
        <a class="dropdown-item" href="#">ドロップダウンリンク1</a>
        <a class="dropdown-item" href="#">ドロップダウンリンク2</a>
        <a class="dropdown-item" href="#">ドロップダウンリンク3</a>
      </div>
    </li><!-- /ここまでドロップダウン -->
...中略...
  </ul>
</div>
</nav>
```

▼図 5-20 画面幅 lg 以上のときのドロップダウン



▼図 5-21 画面幅 md 以下のときのドロップダウン



■ フォーム

ナビゲーションバーの枠内に検索フォームなどの**フォーム**（P.196 参照）を組み込むことができます（リスト 5-25、図 5-22）。

▼リスト 5-25 ナビゲーションバーにフォームを追加する（navbar-form.html）

```
<nav class="navbar navbar-dark bg-dark">
  <a class="navbar-brand">ブランド</a>
  <form class="form-inline" _____①
    <input class="form-control mr-sm-2" type="search" placeholder="検索キーワード" aria-label="検索キーワード"_____②
    <button class="btn btn-outline-success my-2 my-sm-0" type="submit">検索</button>
  </form>
</nav>
```

▼図 5-22 ナビゲーションバーにフォームを追加する



まず、form 要素に **form-inline クラス**を追加して、ナビゲーションバー内にフォームを作成します（①）。次に、input 要素に **form-control クラス**を追加してフォームの入力コントロールを作成します（②）。

またナビゲーションバーのフォームに**入力グループ**（P.223 参照）を使用することもできます（リスト 5-26、図 5-23）。

▼リスト 5-26 ナビゲーションバーに入力グループを追加する（navbar-input-group.html）

```
<nav class="navbar navbar-dark bg-dark">
  <form class="form-inline" _____①
    <div class="input-group" _____②
      <div class="input-group-prepend" _____②
        <span class="input-group-text" id="basic-addon1">@</span>
```

```

    </div>
    <input type="text" class="form-control" placeholder="ユーザー名" aria-label="ユーザー名" ↪
    aria-describedby="basic-addon1">
    </div>
</form>
</nav>

```

▼図 5-23 ナビゲーションバーに入力グループを追加する



入力グループは、div要素に **input-group クラス** を追加して作成します（①）。入力グループの先頭に「@」などのアドオン（追加機能）を作成するには、表示したいテキストを **input-group-text クラス** を設定したspan要素で囲み、さらに **input-group-prepend クラス** を設定したdiv要素で囲みます（②）。

ナビゲーションバーのフォーム内には、異なるサイズのボタンを配置することができます。ボタンのサイズを変更する場合は、ボタン（P.233 参照）のコンポーネントと同様に、button要素に **btn-{ サイズ } クラス** を追加します。サイズには **lg**（大）、**sm**（小）を入れて、ボタンサイズを変更します（リスト 5-27、図 5-24）。

▼リスト 5-27 ナビゲーションバーにサイズ違いのボタンを配置する（navbar-button.html）

```

<nav class="navbar navbar-dark bg-dark">
    <form class="form-inline">
        <button class="btn btn-light mr-3" type="button">通常のボタン</button>
        <button class="btn btn-sm btn-light" type="button">小サイズのボタン</button>
    </form>
</nav>

```

▼図 5-24 ナビゲーションバーにサイズ違いのボタンを配置する



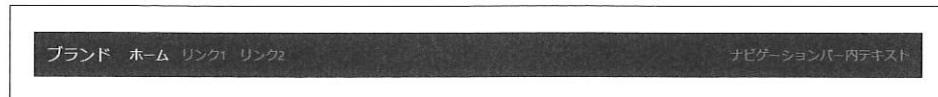
■ テキスト

ナビゲーションバーの枠内にテキストを追加するには、テキスト要素に **navbar-text クラス** を追加します。このクラスは、主にテキスト要素のパディングサイズを調整し、ナビゲーションバー内の縦方向の配置を調整します。なお次の例では、navbar-text クラスが設定された要素に Spacing ユーティリティ（P.318 参照）の **ml-auto クラス** を追加して、テキスト位置をナビゲーションバー内で右寄せにしています（リスト 5-28、図 5-25）。

▼リスト 5-28 ナビゲーションバーにテキストを追加する (navbar-text.html)

```
<nav class="navbar navbar-expand-lg navbar-dark bg-dark">
…中略…
<div class="collapse navbar-collapse" id="navbarText">
…中略…
<span class="navbar-text ml-auto">ナビゲーションバー内テキスト</span>
</div>
</nav>
```

▼図 5-25 ナビゲーションバーにテキストを追加する



5.2.3 ナビゲーションバーの配色

ナビゲーションバーの配色を行う場合は、まず navbar クラスが設定された要素に **navbar-light クラス** または **navbar-dark クラス** を追加します。**navbar-light クラス** を追加すると、明るい背景色で読みやすくなるように暗い文字色が設定されます。**navbar-dark クラス** を選択すると、暗い背景色で読みやすくなるように明るい文字色が設定されます。

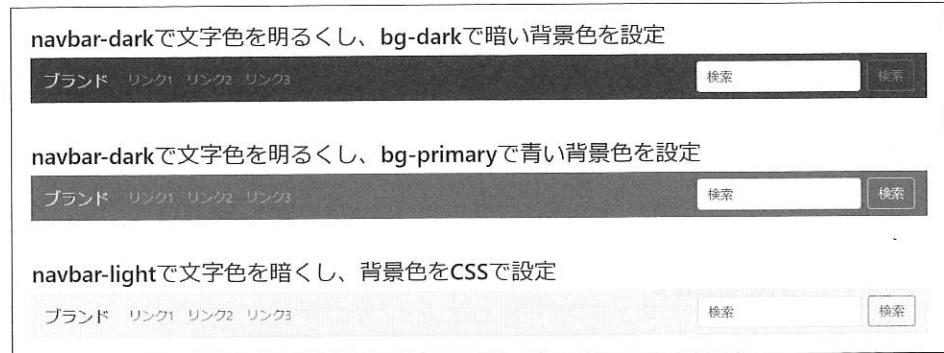
次に Color ユーティリティ (P.302 参照) の **bg-{ 色の種類 } クラス** を追加するか、CSS でスタイルを追加して背景色を設定します。Color ユーティリティの色の種類には **primary** (青)、**secondary** (グレー) などコンテクストに対応した色の種類が入ります (リスト 5-29、図 5-26)。

▼リスト 5-29 ナビゲーションバーの配色を行う (navbar-color.html)

```
<h3>navbar-dark で文字色を明るくし、bg-dark で暗い背景色を設定</h3>
<nav class="navbar navbar-expand-lg navbar-dark bg-dark">
…中略…
</nav>
<h3>navbar-dark で文字色を明るくし、bg-primary で青い背景色を設定</h3>
<nav class="navbar navbar-expand-lg navbar-dark bg-primary">
…中略…
</nav>
<h3>navbar-light で文字色を暗くし、背景色を CSS で設定</h3>
<nav class="navbar navbar-expand-lg navbar-light" style="background-color: #e3f2fd;">
…中略…
</nav>
```

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

▼図 5-26 ナビゲーションバーの配色を行う



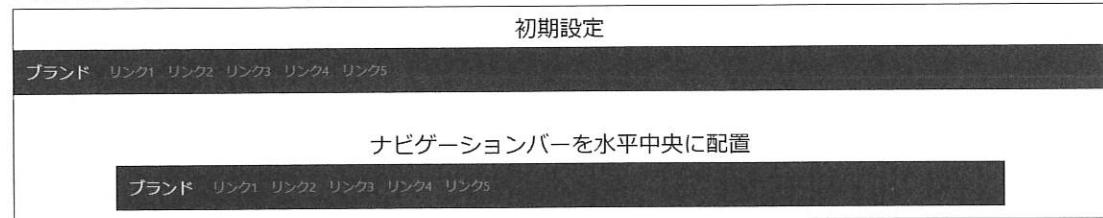
5.2.4 ナビゲーションバーの幅の設定

ナビゲーションバーの幅は、初期設定で画面全幅に広がります。ナビゲーションバーをページの水平中央に配置する場合は、ナビゲーションバーを **container クラス** (P.23 参照) を設定した要素で囲みます (リスト 5-30、図 5-27)。

▼リスト 5-30 ナビゲーションバーを水平中央に配置 (navbar-container.html)

```
<div class="container">
<nav class="navbar navbar-expand-lg navbar-dark bg-dark">
<a class="navbar-brand" href="#">ブランド</a>
…中略…
</nav>
</div>
```

▼図 5-27 ナビゲーションバーを水平中央に配置

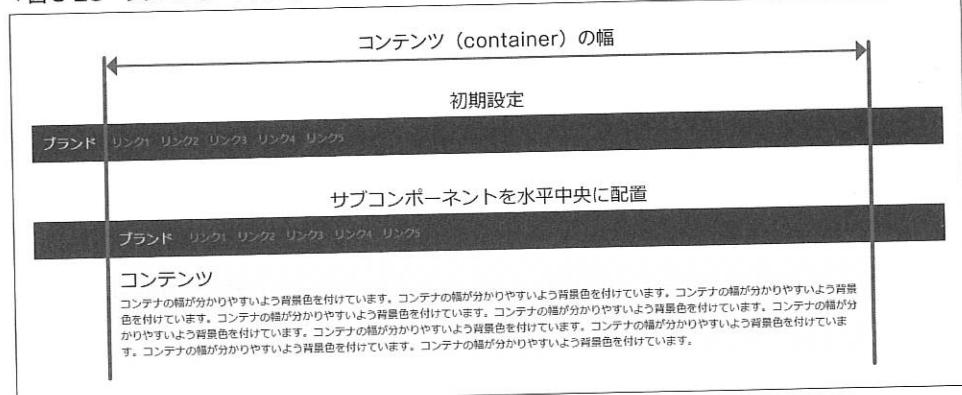


また、ナビゲーションバーの幅は画面全幅のまま、枠内のサブコンポーネントの配置をページの水平中央に配置する場合は、navbar クラスを設定した要素の中を container クラスを設定した要素で囲みます (リスト 5-31、図 5-28)。

▼リスト 5-31 サブコンポーネントをページの水平中央に配置 (navbar-container2.html)

```
<nav class="navbar navbar-expand-lg navbar-dark bg-dark">
  <div class="container">
    <a class="navbar-brand" href="#">Navbar</a>
    ...
  </div>
</nav>
```

▼図 5-28 サブコンポーネントをページの水平中央に配置



5.2.5 ナビゲーションバーの配置

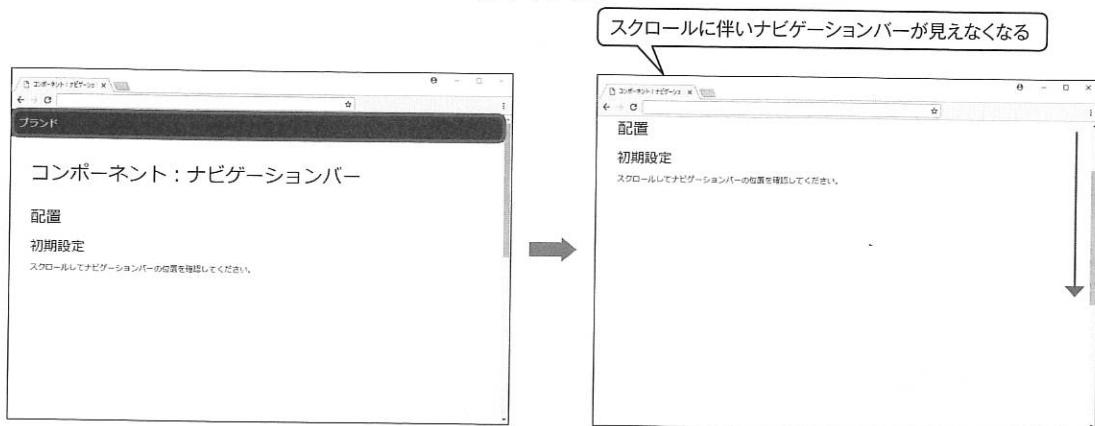
ナビゲーションバーに Position ユーティリティ (P.342 参照) の **fixed-top クラス**、**fixed-bottom クラス**、**sticky-top クラス**を追加して、ナビゲーションバーをページ上部や下部に固定配置することができます。まずは次のサンプルでナビゲーションバーの初期設定の位置を確かめてください。下スクロールに伴って、ナビゲーションバーは見えなくなります (リスト 5-32、図 5-29)。

▼リスト 5-32 ナビゲーションバーの配置：初期設定 (navbar-default.html)

```
<nav class="navbar navbar-dark bg-dark">
  <a class="navbar-brand" href="#">ブランド</a>
</nav>
```

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

▼図 5-29 ナビゲーションバー：ナビゲーションバーの配置：デフォルト



■ 上部固定配置

ナビゲーションバーをページ上部に固定配置する場合は、navbar クラスが設定された要素に **fixed-top クラス** を追加します（リスト 5-33）。

▼リスト 5-33 ナビゲーションバーの配置：上部固定（navbar-fixed-top-pt50.html）

```
<body style="padding-top:50px">
<nav class="navbar fixed-top navbar-dark bg-dark">
  <a class="navbar-brand" href="#">ブランド</a>
</nav>
```

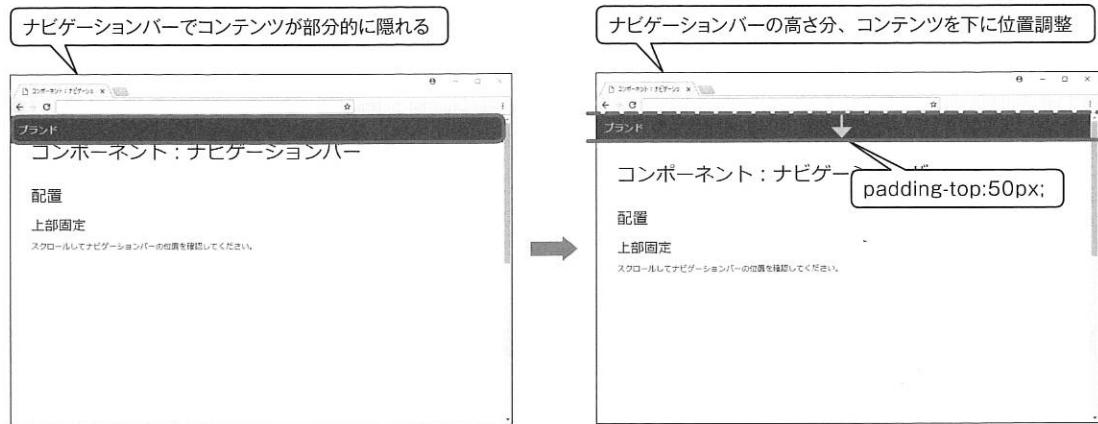
fixed-top クラスのスタイルには **position:fixed;** および **z-index: 1030;** が宣言されているため、ナビゲーションバーの重ね順が前面に指定され、コンテンツが部分的に隠れてしまいます（リスト 5-34）。

▼リスト 5-34 fixed-top クラスに定義されているスタイル

```
.fixed-top {
  position: fixed; /* ボックスの配置を固定 */
  top: 0;
  right: 0;
  left: 0;
  z-index: 1030; /* ボックスの重ね順を前面に指定 */
}
```

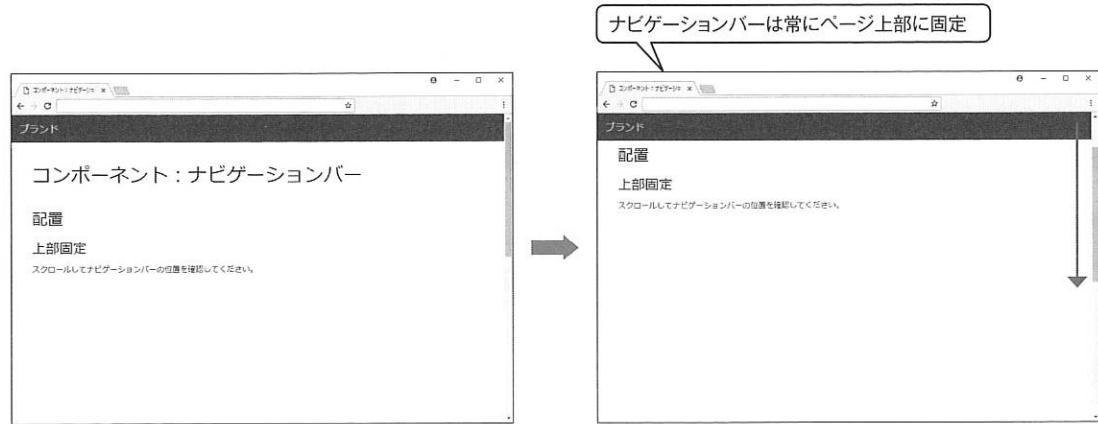
これを防ぐため、先の例では body 要素に属性 `style="padding-top:50px;"` を追加し、ナビゲーションバーの高さ分だけ上パディングを設け、コンテンツを下に位置調整しています（図 5-30）。

▼図 5-30 ナビゲーションバー：上部固定配置の際のコンテンツ位置調整



上部固定配置されたナビゲーションバーの位置を確かめてみてください。下スクロールしても、ナビゲーションバーは常にページ上部に固定されています（図 5-31）。

▼図 5-31 ナビゲーションバーの配置：上部固定



■ 下部固定配置

ナビゲーションバーをページ下部に固定配置する場合は、navbar クラスが設定された要素に **fixed-bottom** クラスを追加します（リスト 5-35、図 5-32）。

▼リスト 5-35 ナビゲーションバーの配置：下部固定 (navbar-fixed-bottom.html)

```
<nav class="navbar fixed-bottom navbar-dark bg-dark">
  <a class="navbar-brand" href="#">ブランド</a>
</nav>
```

▼図 5-32 ナビゲーションバーの配置：下部固定



■ ページ上部に到達すると固定配置

ナビゲーションバーをスクロールに応じてページ上部に固定配置する場合は、navbar クラスが設定された要素に **sticky-top** クラスを追加します。sticky-top クラスが設定されたナビゲーションバーは、スクロールしてナビゲーションバーがページ上部に到達すると固定配置されます（リスト 5-36、図 5-33）。

▼リスト 5-36 ナビゲーションバーの配置：ページ上部に到達すると固定（navbar-sticky-top.html）

```
<nav class="navbar sticky-top navbar-dark bg-dark">
  <a class="navbar-brand" href="#">ブランド</a>
</nav>
```

▼図 5-33 ナビゲーションバーの配置：ページ上部に到達すると固定



なお sticky-top クラスに定義されているスタイル **position: sticky;** は、Internet Explorerなどのブラウザではサポートされておらず、これらのブラウザではナビゲーションが上部に固定されないことに注意してください。

5.2.6 レスポンシブ対応の設定

ナビゲーションバー内のコンテンツは、**navbar-toggler** クラス、**navbar-collapse** クラス、**navbar-expand-{ ブレイクポイント }** クラスなどを使用して、画面幅によって表示を折り畳むかどうかを設定変更することができます。他のユーティリティと組み合わせると、特定の要素を表示するか非表示にするかを選択することもできます。

■ 折り畳まないナビゲーション

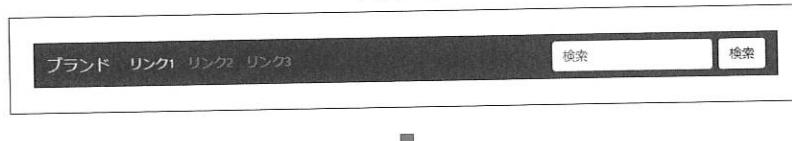
常に展開した状態で、表示を折り畳まないナビゲーションバーを作成する場合は、**navbar** クラスが設定された要素に **navbar-expand** クラスを追加します（リスト 5-37、図 5-34）。

▼リスト 5-37 表示を折り畳まないナビゲーションバー（navbar-expand.html）

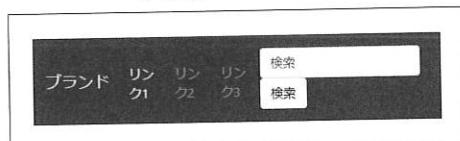
```
<nav class="navbar navbar-expand navbar-dark bg-dark">
  <a class="navbar-brand" href="#">ブランド</a>
  ...
  <div class="collapse navbar-collapse" id="navbarNav">
    ...
  </div>
</nav>
```

▼図 5-34 表示を折り畳まないナビゲーションバー

表示を折り畳まないナビゲーションバー
(画面幅 lg 以上)



(画面幅 sm 以下)



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

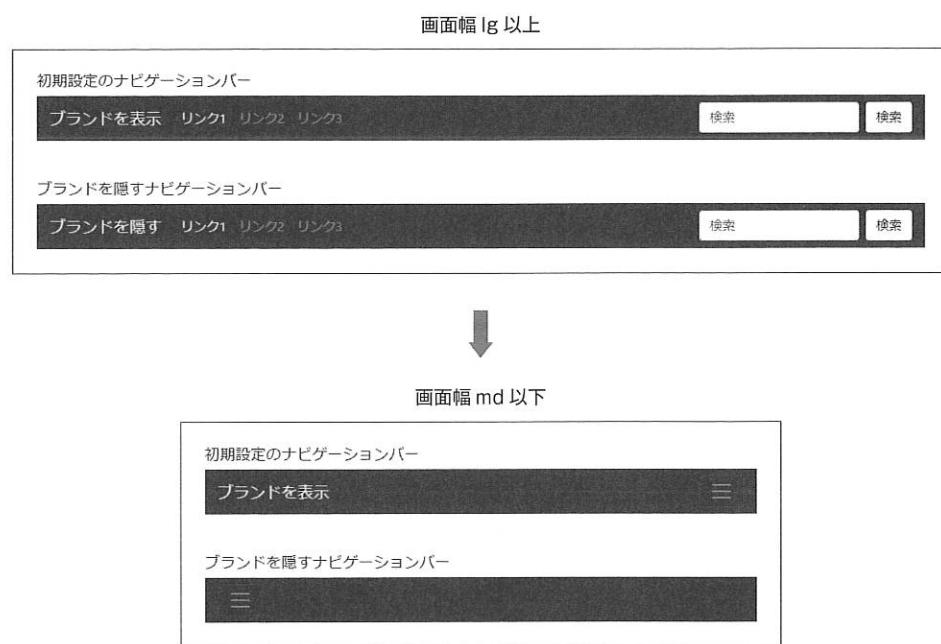
■ ブランドの表示・非表示

ナビゲーションバー内のコンテンツが折り畳まれたとき、初期設定ではブランドの表示は折り畳まれずに残ります。これを隠したい場合は、**collapse クラス**および**navbar-collapse クラス**が設定された要素内にブランドを配置します。次の例は、ナビゲーション項目が画面幅 lg 以上で展開表示され、画面幅 md 以下で折り畳まれるナビゲーションバーです（リスト 5-38、図 5-35）。

▼リスト 5-38 ブランドを隠す（navbar-brand-hidden.html）

```
<nav class="navbar navbar-expand-lg navbar-dark bg-dark">
…中略…
<div class="collapse navbar-collapse" id="navbarNav">
  <a class="navbar-brand" href="#">ブランドを隠す</a>
…中略…
</div>
</nav>
```

▼図 5-35 ナビゲーションバーの配置：ページ上部に到達すると固定



なおナビゲーションバーの切り替えボタンの位置は、ブランドがない場合は左揃えになり、ブランドが表示される場合は右揃えに配置されます。

■ ブランドと切り替えボタンの位置設定

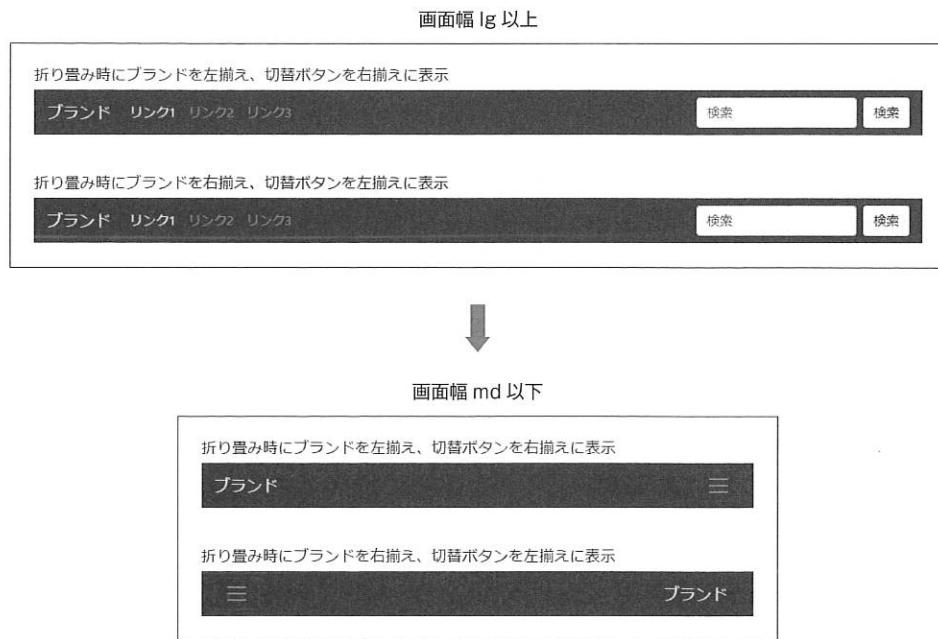
ナビゲーションバー内のコンテンツが折り畳まれたとき、ブランドを左揃え、切り替えボタンを右揃えに配置する場合は、**navbar-brand** クラスが設定された要素の後に、**navbar-toggler** クラスを設定した要素を配置します。反対に、ブランドを右揃え、切り替えボタンを左揃えに配置する場合は、**navbar-brand** クラスが設定された要素の前に、**navbar-toggler** クラスを設定した要素を配置します。

次の例では、ナビゲーション項目が画面幅 lg 以上で展開表示され、画面幅 md 以下で折り畳まれるナビゲーションバーで、ブランドと切り替えボタンの位置を設定しています（リスト 5-39、図 5-36）。

▼リスト 5-39 ブランドと切り替えボタンの位置設定（navbar-toggler-brand.html）

```
<nav class="navbar navbar-expand-lg navbar-dark bg-dark">
  <a class="navbar-brand" href="#">ブランド</a>
  <button class="navbar-toggler" type="button" data-toggle="collapse" data-target="#navbarNav01" aria-controls="navbarNav01" aria-expanded="false" aria-label="ナビゲーション切り替え">
    <span class="navbar-toggler-icon"></span>
  </button>
  ...
</nav>
```

▼図 5-36 ナビゲーションバーの配置：ページ上部に到達すると固定



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

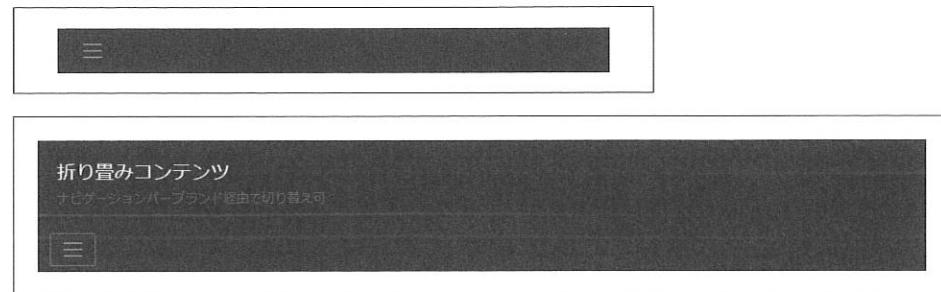
外部コンテンツ

ナビゲーションバー内の切り替えボタンを使用して、ページの別の場所にある隠しコンテンツを表示することができます。**collapse クラス**を設定した要素で隠しコンテンツを囲み、ID名を付けます。ナビゲーションバー内にあるnavbar-toggler クラスを設定した切り替えボタンには、属性 **data-toggle="collapse"**、**data-target="#(隠しコンテンツのID)"** を追加します（リスト 5-40、図 5-37）。

▼リスト 5-40 ナビゲーションバーで外部コンテンツの表示・非表示を切り替える（navbar-external.html）

```
<div class="collapse" id="navbarToggleExternalContent">
  <div class="bg-dark p-4">
    <h4 class="text-white">折り畳みコンテンツ</h4>
    <span class="text-muted">ナビゲーションバー ブランド経由で切り替え可</span>
  </div>
</div>
<nav class="navbar navbar-dark bg-dark">
  <button class="navbar-toggler" type="button" data-toggle="collapse" data-target="#navbarToggleExternalContent" aria-controls="navbarToggleExternalContent" aria-expanded="false" aria-label="ナビゲーション切り替え">
    <span class="navbar-toggler-icon"></span>
  </button>
</nav>
```

▼図 5-37 外部コンテンツの表示・非表示を切り替える



5

SECTION

3

パンくずリスト

パンくずリストは、Web サイトにおいて現在見ている Web ページの位置を階層的に示すためのリストです。Bootstrap には、リスト要素にクラスを追加するだけで簡単にパンくずリストを作成できるコンポーネントが用意されています。本節では Bootstrap のパンくずリストを使用する方法を解説します。

5.3.1 基本的な使用例

nav 要素内の ol 要素に **breadcrumb** クラス、li 要素に **breadcrumb-item** クラスを追加してパンくずリストを作成します。また、現在位置の項目となる li 要素には **active** クラスを追加します（リスト 5-41、図 5-38）。

▼リスト 5-41 パンくずリストの基本的な使用例（breadcrumb.html）

```
<nav aria-label="breadcrumb" role="navigation">
  <ol class="breadcrumb">
    <li class="breadcrumb-item"><a href="#">ホーム</a></li>
    <li class="breadcrumb-item"><a href="#">ライブラリー</a></li>
    <li class="breadcrumb-item active" aria-current="page">データ</li>
  </ol>
</nav>
```

▼図 5-38 パンくずリストの使用例

ホーム / ライブラリー / データ

また nav 要素には、アクセシビリティへの配慮として **role 属性** と **aria-* 属性** を追加します。スクリーンリーダーなどの支援技術に対して、属性 **role="navigation"** がナビゲーションの役割であることを伝え、属性 **aria-label="breadcrumb"** がパンくずリストとしてのラベル付けを行います。

リストグループ

Bootstrap の**リストグループ**は、リスト項目を枠で囲まれたひとまとまりのコンテンツとして表示するためのコンポーネントです。Bootstrap には、アクティブ状態やホバー状態を示すことができるリンク付きリストや、バッジ付きのリストなどさまざまなデザインのリストグループが用意されています。本節では Bootstrap のリストグループを使用する方法を解説します。

5.4.1 基本的な使用例

ul 要素に **list-group** クラス、li 要素に **list-group-item** クラスを追加して、基本的なリストグループを作成します（リスト 5-42、図 5-39）。

▼リスト 5-42 リストグループの基本的な使用例（listgroup-basic.html）

```
<ul class="list-group">
  <li class="list-group-item">リスト項目1</li>
  <li class="list-group-item">リスト項目2</li>
  <li class="list-group-item">リスト項目3</li>
</ul>
```

▼図 5-39 リストグループの基本的な使用例



5.4.2 リスト項目をアクティブ状態にする

リスト項目をアクティブ状態で表示させるには、list-group-item クラスが設定された li 要素に **active** クラスを追加します（リスト 5-43、図 5-40）。

▼リスト 5-43 リスト項目をアクティブ状態にする（listgroup-active.html）

```
<ul class="list-group">
  <li class="list-group-item active">リスト項目1</li>
  <li class="list-group-item">リスト項目2</li>
```

```
<li class="list-group-item">リスト項目3</li>
</ul>
```

▼図 5-40 リスト項目をアクティブ状態にする



5.4.3 リスト項目を無効状態にする

リスト項目を選択が無効な状態で表示するには、list-group-item クラスが設定された li 要素に **disabled** クラスを追加します（リスト 5-44、図 5-41）。

▼リスト 5-44 リスト項目を無効状態にする（listgroup-disabled.html）

```
<ul class="list-group">
  <li class="list-group-item disabled">リスト項目1</li>
  <li class="list-group-item">リスト項目2</li>
  <li class="list-group-item">リスト項目3</li>
</ul>
```

▼図 5-41 リスト項目を無効状態にする



5.4.4 リンク付きリストグループ

ホバー、無効、アクティブといったリンクのアクションが可能なリストグループを作成することができます。このようなリンク付きリストグループを作成する場合は、親要素となる div 要素に **list-group** クラス、子要素となる a 要素または button 要素に **list-group-item-action** クラスを追加します（リスト 5-45）。このリストグループでは ul 要素や li 要素を使用しない点に注意してください。またこのコンポーネント内には **btn** クラスを使用したボタン（P.233 参照）のコンポーネントを使用しないでください。

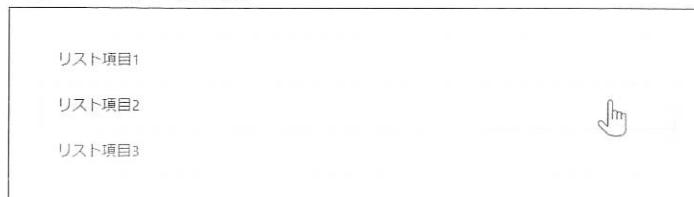
▼リスト 5-45 リンク付きリストグループ（listgroup-links.html）

```
<div class="list-group">
  <a href="#" class="list-group-item list-group-item-action">リスト項目1</a>
```

```
<a href="#" class="list-group-item list-group-item-action">リスト項目2</a>
<a href="#" class="list-group-item list-group-item-action disabled">リスト項目3</a>
</div>
```

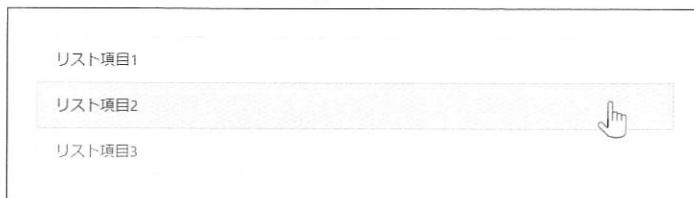
list-group-item-action クラスが追加された項目は、ホバー時の背景色が明るいグレーに変わります（図5-42）。

▼図5-42 ホバー時の項目



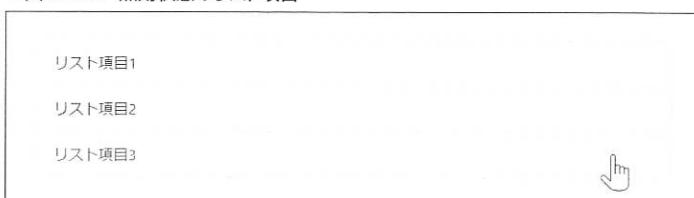
アクティブ時は、ホバー時より少し暗い背景色と文字色に変わります（図5-43）。

▼図5-43 アクティブ時のリスト項目



disabled クラスが追加されて無効状態になった項目は、アクションが無効化されて背景色が変わりません（図5-44）。

▼図5-44 無効状態のリスト項目



5.4.5 ボタンのリストグループ

a要素と同様、button要素に**list-group-item-action クラス**を追加して、リンクのアクションが可能なリストグループを作成することもできます。button要素を使用した場合は、disabledクラスの代わりに**disabled属性**を追加して無効状態の項目を作成することもできます（リスト5-46）。

▼リスト 5-46 ボタンのリストグループ (listgroup-buttons.html)

```
<div class="list-group">
  <button type="button" class="list-group-item list-group-item-action">リスト項目1</button>
  <button type="button" class="list-group-item list-group-item-action">リスト項目2</button>
  <button type="button" class="list-group-item list-group-item-action">リスト項目3</button>
  <button type="button" class="list-group-item list-group-item-action" disabled>リスト項目4</button>
</div>
```

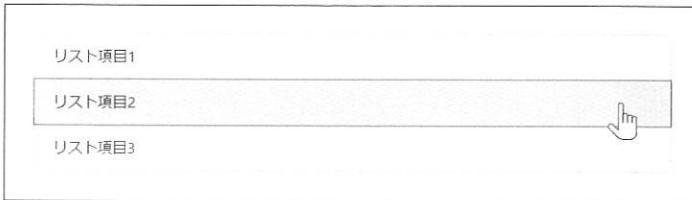
a 要素と同様に、button 要素の場合も **list-group-item-action** クラスが追加された項目は、ホバー時の背景色が明るいグレーに変わります（図 5-45）。

▼図 5-45 ホバー時の項目



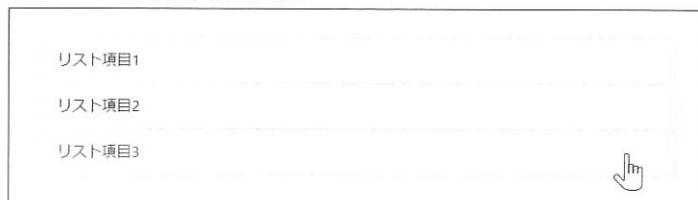
アクティブ時は、ホバー時より少し暗い背景色と文字色に変わります（図 5-46）。

▼図 5-46 アクティブ時のリスト項目



`disabled` クラスまたは `disabled` 属性を追加して無効状態になった項目は、アクションが無効化されて背景色が変わりません。この例では、`disabled` 属性を追加しています（図 5-47）。

▼図 5-47 無効状態のリスト項目



5.4.6 リストグループの背景色を変更する

`list-group-item` クラスが設定された要素に `list-group-item-{ 色の種類 }` を追加して、リスト項目の背景色を変更することができます。アラート（P.110 参照）と同様、色の種類には **primary**（青）、**secondary**（グレー）などコンテキストに対応した色の種類が入ります（リスト 5-47、図 5-48）。

▼リスト 5-47 リストグループの背景色を変更する（listgroup-background.html）

```
<ul class="list-group">
  <li class="list-group-item list-group-item-primary">これは「primary」のリスト項目です。</li>
  <li class="list-group-item list-group-item-secondary">これは「secondary」のリスト項目です。</li>
  <li class="list-group-item list-group-item-success">これは「success」のリスト項目です。</li>
  <li class="list-group-item list-group-item-danger">これは「danger」のリスト項目です。</li>
  <li class="list-group-item list-group-item-warning">これは「warning」のリスト項目です。</li>
  <li class="list-group-item list-group-item-info">これは「info」のリスト項目です。</li>
  <li class="list-group-item list-group-item-light">これは「light」のリスト項目です。</li>
  <li class="list-group-item list-group-item-dark">これは「dark」のリスト項目です。</li>
  <li class="list-group-item">これは「デフォルト」のリスト項目です。</li>
</ul>
```

▼図 5-48 リストグループの背景色を変更する



5.4.7 リンク付きリストグループの背景色を変更する

`list-group-item-action` クラスが設定された要素に `list-group-item-{ 色の種類 } クラス` を追加して、リンク付きのリスト項目の背景色を変更することもできます。この場合、ホバー時には背景色が少し暗く変わります（リスト 5-48、図 5-49）。

▼リスト 5-48 アクション可能な背景色クラスのリストグループ（listgroup-background-action.html）

```
<div class="list-group">
```

```
<a href="#" class="list-group-item list-group-item-action list-group-item-primary">これは「primary」のリスト項目です。</a>
…中略…
</div>
```

▼図 5-49 アクション可能な背景色クラスのリストグループ



また、list-group-item-{ 色の種類 } クラスが設定された要素に **active** クラスを追加すると、背景色が濃くなってアクティブ状態を表すことができます（リスト 5-49、図 5-50）。

▼リスト 5-49 アクティブ状態のアクション可能な背景色クラスのリストグループ（listgroup-background-action-active.html）

```
<div class="list-group">
  <a href="#" class="list-group-item list-group-item-action list-group-item-primary active">これは「primary」のリスト項目です。</a>
  …中略…
</div>
```

▼図 5-50 アクティブ状態のアクション可能な背景色クラスのリストグループ



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

COLUMN 支援技術に色の意味を伝えよう

Bootstrap の Color ユーティリティ (P.302 参照) やコンテキストと対応した色クラスを使用して色を変更すると、視覚的な情報の差別化ができますが、スクリーンリーダーなどの支援技術のユーザーにはそのコンテキスト（文脈や意味）が伝わりません。たとえば「重要」「注意」のように、色が表すコンテキストをテキストで記載したり、テキストを非表示にするスクリーンリーダー用ユーティリティ (P.354 参照) の **sr-only** クラスを使って情報を追加するなど、アクセシビリティに配慮した情報の伝達を心がけましょう。

5.4.8 バッジ付きリストグループ

リストグループに Display ユーティリティ (P.310 参照) や Flex ユーティリティ (P.322 参照) を使用して、バッジ (P.115 参照) を組み込むことができます。これによって、リストグループの項目に未読の数や活動数といったラベルやカウンターを表示することができます（リスト 5-50、図 5-51）。

▼リスト 5-50 バッジ付きリストグループ (listgroup-badges.html)

```
<ul class="list-group">
  <li class="list-group-item d-flex justify-content-between align-items-center">—————①—————
    リスト項目1
    <span class="badge badge-primary badge-pill">14</span>—————②—————
  </li>
  …中略…
</ul>
```

▼図 5-51 バッジ付きリストグループ



先の例では、リスト項目の両端の上下中央にテキストとバッジをレイアウトするために、表 5-4 のクラスを使用しています（①）。

▼表 5-4 バッジ付きリストのレイアウトに使用したクラス

クラス	概要	ユーティリティ
d-flex	レイアウトに flexbox を使用する	Display ユーティリティ (P.310 参照)
justify-content-between	アイテムを両端から均等に揃える	Flex ユーティリティ (P.322 参照)
align-items-center	アイテムを交差軸（主軸に対して垂直な軸）の中央に配置する	Flex ユーティリティ (P.322 参照)

また、span要素に**badge**クラス、**badge-primary**クラス、**badge-pill**クラスを追加して、リスト項目のカウンターとして青色で丸みを帯びたバッジを配置しています（②）。バッジの色や形の指定について詳しくは「バッジ」（P.115）を参照してください。

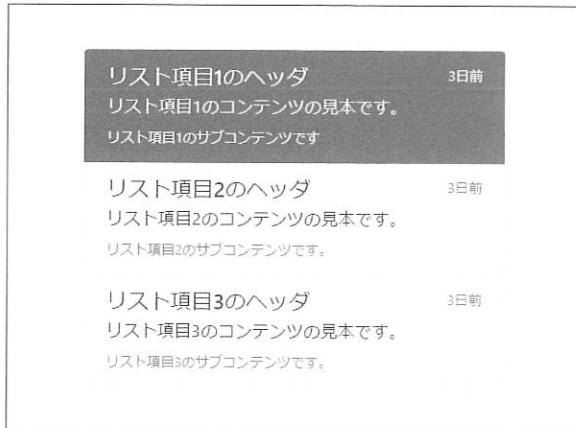
5.4.9 カスタムコンテンツのリストグループ

リストグループにDisplayユーティリティ（P.310参照）やFlexユーティリティ（P.322参照）などを使用して、リスト項目内にヘッダーやリンク付きのコンテンツをレイアウトすることができます。バッジ付きのリストグループと同様、コンポーネントにユーティリティを組み合わせることでさまざまなバリエーションを生み出すことができます（リスト5-51、図5-52）。

▼リスト5-51 カスタムコンテンツのリストグループ（listgroup-custom-content.html）

```
<div class="list-group">
  <a href="#" class="list-group-item list-group-item-action flex-column align-items-start active">①
    <div class="d-flex w-100 justify-content-between"> ②
      <h5 class="mb-1">リスト項目1のヘッダー</h5>
      <small>3日前</small>
    </div>
    <p class="mb-1">リスト項目1のコンテンツの見本です。</p>
    <small>リスト項目1のサブコンテンツです</small>
  </a>
  ...中略...
</div>
```

▼図5-52 カスタムコンテンツのリストグループ



リスト項目（①）のレイアウトには表5-5のクラスを使用しています。

▼表 5-5 リスト項目のレイアウトに使用したクラス

クラス	概要	ユーティリティ
flex-column	アイテムを上から下に配置	Display ユーティリティ (P.310 参照)
align-items-start	アイテムを交差軸（主軸に対して垂直な軸）の始点に配置	Flex ユーティリティ (P.322 参照)

リスト項目内のコンテンツ（②）のレイアウトには表 5-6 のクラスを使用しています。

▼表 5-6 カスタムコンテンツのレイアウトに使用したクラス

クラス	概要	ユーティリティ
d-flex	レイアウトに flexbox を使用する	Flex ユーティリティ (P.322 参照)
w-100	アイテムの幅を親要素の 100% に設定する	Sizing ユーティリティ (P.314 参照)
justify-content-between	アイテムを両端から均等に揃える	Flex ユーティリティ (P.322 参照)

5.4.10 枠なしのリストグループ 4.1

list-group クラスが設定された要素に **list-group-flush** クラスを追加して、リストグループの外枠と角丸を削除することができます。これは、カード（P.124 参照）内にリストグループを組み込むような場合に、親要素の全幅に渡る幅のリストグループを作成できるため便利です（リスト 5-52、図 5-53）。

▼リスト 5-52 Flex ユーティリティを使用したレスポンシブなナビゲーション（listgroup-flush.html）

```
<div>
  <ul class="list-group list-group-flush">
    <li class="list-group-item">リスト項目1</li>
    <li class="list-group-item">リスト項目2</li>
    <li class="list-group-item">リスト項目3</li>
  </ul>
</div>
```

▼図 5-53 枠なしのリストグループ



```

リスト項目1
リスト項目2
リスト項目3

```

5

SECTION

5

ページネーション

ページネーションは、一連の関連コンテンツが複数のページに渡って存在しているような場合に、ページ送りの機能を提供するナビゲーションです。Bootstrapには、リスト要素にクラスを追加するだけで簡単にページネーションを作成できるコンポーネントが用意されています。本節では、Bootstrapのコンポーネントとして用意されているページネーションを、アクセシビリティに配慮しながら使用する方法を解説します。

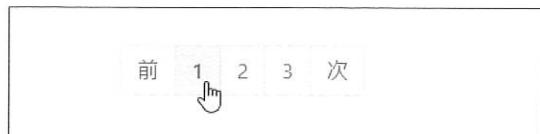
5.5.1 基本的な使用例

nav 要素内の ul 要素に **pagination** クラス、li 要素に **page-item** クラスを追加してページネーションを作成します（リスト 5-53、図 5-54）。

▼リスト 5-53 ページネーションの基本的な使い方（pagination-basic.html）

```
<nav aria-label="ページネーションの例">
  <ul class="pagination">
    <li class="page-item"><a class="page-link" href="#">前</a></li>
    <li class="page-item"><a class="page-link" href="#">1</a></li>
    <li class="page-item"><a class="page-link" href="#">2</a></li>
    <li class="page-item"><a class="page-link" href="#">3</a></li>
    <li class="page-item"><a class="page-link" href="#">次</a></li>
  </ul>
</nav>
```

▼図 5-54 基本のページネーション



nav 要素には、アクセシビリティへの配慮として **aria-label** 属性を追加し、スクリーンリーダーなどの支援技術に対して、このナビゲーションがページネーションであることをラベル付けします。この属性で指定したラベルは画面上には表示されず、スクリーンリーダーなどで読み上げられます。また、ページネーションに ul 要素を使用することで、スクリーンリーダーは利用可能なリンクの数を伝えることができます。

5.5.2 ページネーションにアイコンを使用する

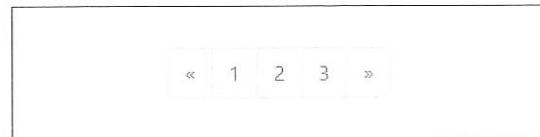
ページネーション内のリンク箇所に、「前へ」や「次へ」といったテキストを使わず、アイコンや記号を使用する場合は、**aria-* 属性**やスクリーンリーダー用ユーティリティ（P.354 参照）の**sr-only クラス**を使用してアクセシビリティに配慮する必要があります。

次の例では、「前」「次」のテキストリンクの代わりに、«で左二重角引用符「<<」、»で右二重角引用符「>>」の記号を使用しています（リスト 5-54、図 5-55）。

▼リスト 5-54 ページネーションにアイコンを使用する（pagination-icon.html）

```
<nav aria-label="ページネーションの例">
  <ul class="pagination">
    <li class="page-item">
      <a class="page-link" href="#" aria-label="前へ">
        <span aria-hidden="true">&laquo;</span>
        <span class="sr-only">前へ</span>
      </a>
    </li>
    <li class="page-item"><a class="page-link" href="#">1</a></li>
    <li class="page-item"><a class="page-link" href="#">2</a></li>
    <li class="page-item"><a class="page-link" href="#">3</a></li>
    <li class="page-item">
      <a class="page-link" href="#" aria-label="次へ">
        <span aria-hidden="true">&raquo;</span>
        <span class="sr-only">次へ</span>
      </a>
    </li>
  </ul>
</nav>
```

▼図 5-55 ページネーションにアイコンを使用する



この例では、「前へ」と「次へ」を意味する記号には、それぞれ **aria-label** 属性を使ってその意味を記述し、属性 **aria-hidden="true"** を追加して記号自体が読み上げられないようにしています。さらに、スクリーンリーダー用ユーティリティ（P.354 参照）の**sr-only クラス**を使用して、スクリーンリーダー用に「前へ」「次へ」という非表示テキストを加えておきましょう。

5.5.3 リンクに無効状態や現在位置であることを示す

ページネーションのリンクは、無効状態を示したり現在位置であることを示すなど、さまざまな状態に合わせてカ

スタイル化することができます（リスト 5-55）。

▼リスト 5-55 リンクの無効状態やアクティブ状態を指定する（pagination-disabled-active.html）

```
<nav aria-label="ページナビゲーションの例">
  <ul class="pagination">
    <li class="page-item disabled">①
      <a class="page-link" href="#" tabindex="-1">前</a>②
    </li>
    <li class="page-item"><a class="page-link" href="#">1</a></li>
    <li class="page-item active">③
      <a class="page-link" href="#">2 <span class="sr-only">(現ページ)</span></a>④
    </li>
    <li class="page-item"><a class="page-link" href="#">3</a></li>
    <li class="page-item">
      <a class="page-link" href="#">次</a>
    </li>
  </ul>
</nav>
```

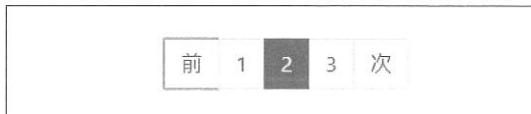
リンクを無効状態で表示するには、page-item クラスが設定された要素に **disabled クラス**を追加します（①）。さらに page-link クラスが設定された a 要素には、属性 **tabindex="-1"** を追加します（②）。

リンクが現在位置であることを示すには、page-item クラスが設定された要素に **active クラス**を追加します（③）。さらに page-link クラスが設定された a 要素内には、スクリーンリーダー用ユーティリティ（P.354 参照）の **sr-only クラス**を使用して、スクリーンリーダー用に現在位置であることを示す非表示テキストを加えておきましょう（④）。

COLUMN tabindex 属性でリンクを無効状態にする

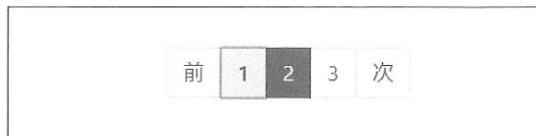
Bootstrap で定義されている disabled クラスのスタイルには、**pointer-events: none;** が宣言されており、これによって a 要素のリンク機能を無効化します。ただしこの CSS プロパティはまだ標準化されておらず、Internet Explorer 10 以前など一部の古いブラウザには対応していません（2018 年 3 月現在）。またこのプロパティには、キーイベントを無効化する機能がないため、Tab キーを押してフォーカスを移動して該当箇所で Enter キーを押した場合などはページが遷移してしまいます（図 5-56）。

▼図 5-56 tabindex="-1" がない場合：Tab キーを押すと「前」にフォーカスが移動する



この問題を回避するため、a 要素に属性 **tabindex="-1"** を追加します。tabindex 属性は、Tab キーでフォーカスを移動する順序を明示的に指定するオプションですが、負の整数を指定するとリンク機能は残したままフォーカスが移動しなくなります（図 5-57）。

▼図 5-57 tabindex="-1" を指定: Tab キーによるフォーカス移動が効かなくなる
（「前」のフォーカスはなくなり、「1」からフォーカスされる）



なお、完全にリンク機能を完全に無効化するには、JavaScript を使用する必要があります。次のコードは、jQuery を使ってリンクを無効にしたサンプルです（リスト 5-56）。

▼リスト 5-56 jQuery を使ってリンクを無効化する（pagination-disable-active.html）

```
<script>
$(function(){
  $('.disabled > a.page-link').click(function(){
    return false;
  });
});
</script>
```

ちなみに、リンクの無効状態や現在位置であることを示す要素は、a 要素ではなく span 要素でも構いません。span 要素を使用する場合は、先の tabindex="-1" の指定やリンクを無効化するコードは不要です（リスト 5-57）。

▼リスト 5-57 span 要素を使用してリンクの無効状態やアクティブ状態を指定する（pagination-disable-active-span.html）

```
<nav aria-label="ページネーションの例">
  <ul class="pagination">
    <li class="page-item disabled">
      <span class="page-link">前</span>
    </li>
    <li class="page-item"><a class="page-link" href="#">1</a></li>
    <li class="page-item active">
      <span class="page-link">
        2
        <span class="sr-only">(現ページ)</span>
      </span>
    </li>
    <li class="page-item"><a class="page-link" href="#">3</a></li>
    <li class="page-item">
      <a class="page-link" href="#">次</a>
    </li>
  </ul>
</nav>
```

5.5.4 ページネーションのサイズを変更する

ページネーションのサイズを変更する場合は、`pagination` クラスが設定された要素に **pagination-{ サイズ } クラス** を追加します。サイズには **lg** (large) または **sm** (small) が入ります。

ページネーションのサイズを大きくする場合は **pagination-lg クラス** を使用し、小さくする場合は **pagination-sm クラス** を使用します（リスト 5-58、図 5-58）。

▼リスト 5-58 ページネーションのサイズを変更する（pagination-sizing.html）

```
<h3>pagination-lg</h3>
<nav aria-label="ページネーションの例">
  <ul class="pagination pagination-lg">
    ...中略...
  </ul>
</nav>
<h3>pagination-sm</h3>
<nav aria-label="ページネーションの例">
  <ul class="pagination pagination-sm">
    ...中略...
  </ul>
</nav>
```

▼図 5-58 ページネーションのサイズを変更する



5.5.5 ページネーションの配置

ページネーションの配置を変更する場合は、`pagination` クラスが設定された要素に Flex ユーティリティ（P.322 参照）の **justify-content-{ 整列方法 } クラス** を追加します。整列方法には、**center**（中央）、**end**（終点）などが入ります。

ページネーションを中央揃えにする場合は **justify-content-center クラス** を使用し、右揃えにするには **justify-content-end クラス** を使用します（リスト 5-59、図 5-59）。

▼リスト 5-59 ページネーションの配置（pagination-align.html）

```
<section>
<h3>中央揃え (justify-content-center) </h3>
```

```
<nav aria-label="ページネーションの例">
  <ul class="pagination justify-content-center">
    ...中略...
  </ul>
</nav>
</section>
<section>
  <h3>右揃え (justify-content-end) </h3>
  <nav aria-label="Page navigation example">
    <ul class="pagination justify-content-end">
      ...中略...
    </ul>
  </nav>
</section>
```

▼図 5-59 ページネーションの配置

